



— 本日のプログラム —

- ◆ロータリーソング『四つのテスト』
- ◆卓話 穴水町文化懇話会 会長 坂下 璣(たまき)氏
テーマ『文化勲章受章の書家 故 青山杉雨先生
との出会い』

第2459回例会（1月21日）報告

司会 曾又博史 S A A 委員長

- ◆開会点鐘 中室勝郎会長
- ◆ロータリーソング『それでこそロータリー』
- ◆ゲスト・ビジター紹介 中室勝郎会長
- ・ゲスト (株)ハイディワイナリー 代表 高作正樹 氏
- ・ビジター 石川第4分区ガバナー補佐 吉村多作 氏
- ・穴水ロータリークラブ 井上 勇 氏、舞谷 繁 氏、
石川和義 氏、乗地淳子 氏
- ◆皆出席表彰 今井善弘副委員長
- ・36年間 山上信次郎会員 ・35年間 新橋康紀会員
- ・31年間 板谷七海雄会員 ・26年間 曾又博史会員
- ・17年間 山瀬秋雄会員 ・14年間 中室勝郎会員
- ・7年間 久岡政治会員 ・7年間 今井善弘会員
- ◆会長の時間 中室勝郎会長

「超我の奉仕」

ロータリーのモットーとして「最もよく奉仕する者。最も多く報われる」と並んで「超我の奉仕」があります。提唱者は、1910年創立のミネアポリス・ロータリークラブ会長のベンジャミン・フランク・コリンズで、1911年のことです。

彼の発言は最初「無我の奉仕」と紹介されました。これは誤解を生みました。自己を犠牲にして、他人に奉仕するのかと解されたからです。本意は当時の会員は、ロータリーは会員相互の扶助的取引のための会と考える人が多くいました。そこで、コリンズは、会員間で生まれる利益のシステムを広く、ロータリー以外の人々にも摘要すべきと主張しました。つまり、ロータリーの会員間では特別な権利をもたない。すべての人々に同じように公正であるべきとする後のロータリーの基本理念でした。

ロータリーのモットーである「超我の奉仕」は、自分が所属している会社や団体へ、特別な恩恵を求める事をいませめています。ロータリーの運動が、長く世界に受け入れられるのは、二つのモットーを持つからです。

◆50周年記念事業実行委員会 森山秀夫実行委員長
来週火曜日に実行委員会及び各委員長にお集まり頂き、今までの状況、今後の進め方についてお話しします。ご協力お願い致します。

◆ふるさと事業委員会 新橋康紀委員長
来週までにアンケートの提出をお願い致します。

◆出席報告 今井善弘副委員長

1月21日の暫定出席率：67.57%
(出席25名、欠席12名)

1月14日の確定出席率：100%

(出席26名、欠席11名、メーク加算11名)

◆ニコニコBOX報告 今井善弘副委員長

・都市連合のPRをお願いに来ました。

石川第4分区ガバナー補佐 吉村多作氏
・来る3月9日開催の都市連合のピーアールに大勢でお願いに来ました。よろしく。 穴水ロータリークラブ
・本日は大勢の皆様をお迎えでき嬉しく思います。

中室勝郎会長
・高作正樹様、ようこそおいでくださいました。本日は、卓話よろしくお願い致します。穴水ロータリークラブ皆様ようこそ。 西 豊幹事

・高作さん、ワインの話を楽しみにしております。穴水RCの皆様、ようこそおいで下さいました。

徳野喜一郎会員
・高作さん卓話よろしく。穴水RCの皆様ようこそ。

大向洋紀会員
・高作正樹さん、ようこそ輪島RCへ。卓話宜しくお願い致します。 田谷昭宏会員

・穴水RCの皆さんようこそ。皆出席の表彰をいただきました。 新橋康紀会員

・皆出席表彰をいただきました。 山上信次郎会員
板谷七海雄会員、久岡政治会員、今井善弘会員

◆卓話者紹介 田谷昭宏会員

◆卓話 (株)ハイディワイナリー 代表 高作正樹 氏



父が門前町が実家で、幼少のころから毎年お盆の時期に門前町に横浜の実家から訪れていました。ブドウ栽培は土地が命というところもあります。ワインは、どちらかという個性だと思います。将来的に、能登半島一帯に、ワイナリーが出来てかつ、自分たちで何世代も後まで続けられるような場所を目指していくとなると、こういう土地が素晴らしいのかなと思いました。日本の石川県の輪島のワイナリーとお寺とその他資源（海のもの山のものの資源）が結びついた時の空間のイメージを発信出来た時には、素晴らしい力になるのではないかと僕自身思っています。ぶどう栽培、ワイン造りは絶対に忘れず、それを通して、地域の発展のために時機を設けてその時までに成し遂げるという覚悟で望んで行く次第です。ほかの仲間と精一杯頑張っていきますので、これからもよろしくお願い致します。

◆閉会点鐘 中室勝郎会長

[編集：保下信一会員]